

## 第21回松本歯科大学総合歯科医学研究所特別セミナー

日時： 9月26日(木)午後6時より  
場所： 実習館2階総合歯科医学研究所セミナールーム

演者： 王宝禮先生(松本歯科大学歯科薬理学講座)

タイトル： 「バイオフィルムから齲蝕・歯周病を考える」

最近になって歯科界に登場したバイオフィルムの歴史はまだ浅く、以前は大学の講義においてさえ、歯垢(デンタルプラーク)をバイオフィルムとして捉えてはいませんでした。しかし今、バイオフィルムの概念が、なぜデンタルプラークが齲蝕や歯周病を引き起こすのか、またなぜそれらの疾患の予防や治療に対して著明な効果を示さないのかということに対して解答を導きだしてくれています。

さて、歯科界にデンタルプラークをバイオフィルムとして捉える国際学会(14<sup>th</sup> International Conference on Oral Biology: 口腔生物学国際学会)が、1996年にアメリカ・モンレーで開催されました。本学会のメインテーマは、Biofilms on Oral Surfaces (口腔内バイオフィルム)でありました。学会の講演では、現在も世界のバイオフィルムの研究をリードする Costerton 博士がバイオフィルムの概念を語り、その定義について「細菌集団を含んだマトリックスで、対象物の表面または境界面に付着しているもの」と提唱しておりました。この学会を境に日本の歯科界にも「バイオフィルム」の概念が普及しはじめたように思われます。その後、Costerton 博士は、1999年の「Science」誌にデンタルプラークがバイオフィルムであると紹介され、この報告によりバイオフィルムの概念が歯科界にさらに強く印象づけられたと思われまます。最近では、口腔バイオフィルムに關与する齲蝕や歯周病が「バイオフィルム感染症(Biofilm disease)」としても称されてきました。今回、王先生には新しい角度で、バイオフィルムから、齲蝕および歯周病についてお話ししていただきました。